



# 健康科学

HUMAN HEALTH SCIENCES GRADUATE SCHOOL OF MEDICINE KYOTO UNIVERSITY

2008年

第5号

## ● 目 次 ●

### 1 原 著

- ①高齢者の階段下降時における注視による転落転倒危険の視認  
—高齢者, 中年者, 若年者の注視点停留分析による比較—  
桂 敏樹, 三浦 範大, 高橋 康朗, 久本 誠一, 星野 明子, 臼井 香苗,  
林 育子 1
- ②高校生の現状医療に対する認識度と尊厳死に対する意識との関連性  
大橋 尚弘, 赤澤 千春, 林 優子 9
- ③Effects of body position during an afternoon nap on body temperature and  
heart rate variability in young healthy Japanese men 17  
Tomoko Wakamura, Kazuyo.Suzuki, Motomi Toichi, Akira Tamaki,  
Sachiko Horita, Kazuko Matsugi, Asako Miyajima
- ④外乱刺激に対する予測の可否が体幹筋の筋活動に与える影響 23  
太田 恵, 建内 宏重, 井上 拓也, 永井 宏達, 森 由隆, 市橋 則明
- ⑤園芸療法評価の試み —淡路式園芸療法評価表 (AHTAS) と既存の評価尺度による検証—  
豊田 正博, 山根 寛 29

### 2 諸報告

- (1) 教育活動報告
- ①健康観を育む授業の試み 鈴木 和代, 宮島 朝子 37
- ②人間健康科学系専攻におけるeラーニングシステムの現状と教育活動状況  
笹山 哲, 奥田 泰弘 43
- (2) 臨床活動報告
- ①「がん患者さんとそのご家族のためのウェルネスセッション」研究会の活動  
高橋 美和, 江口 恭子, 佐藤 泰子, 萩原 三義, 黒木 裕士, 齋藤 ゆみ 47
- ②住民参加型のヘルスプロモーション活動の支援方法の開発 星野 明子 51
- (3) 研究活動報告
- ①本学における短期大学専攻科から大学選択課程への移行による助産診断・  
技術項目の到達度の評価: 臨床指導者からの評価 55  
渡邊 浩子, 山口 琴美, 千葉 陽子, 柳吉 桂子, 谷口 初美, 我部山キヨ子
- ②施設入所高齢者の日常生活満足度とその関連要因 (第1報)  
—利用者の基礎属性からの検討— 61  
宮崎つた子, 柳瀬 仁, 我部山キヨ子
- ③施設入所高齢者の日常生活満足度とその関連要因 (第2報)  
—施設入所高齢者とケア提供者との認識のズレからの検討— 67  
宮崎つた子, 柳瀬 仁, 我部山キヨ子
- ④糖尿病看護学領域における看護診断の検討  
—臨床現場の実状からの診断ラベルの抽出— 71  
本田 育美, 奥津 文子, 小平 京子, 笠岡 和子, 神谷 千鶴, 中馬 成子,  
江川 隆子

### 3 第21回健康科学市民公開講座

- ①あなたのおなかは泣いている 福田 善弘 75
- ②がんからのシグナルを探る 椎名 毅 77
- ③ ところを映し出す遺伝子 六反 一仁 79

- 4 業績リスト ..... 81
- 5 投稿規程 ..... 107
- 6 編集後記 ..... 109

## 投 稿 規 定

1. 投稿資格：著者は原則として京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻教職員（非常勤講師，元教職員，元京都大学医療技術短期大学部教職員，元京都大学医学部保健学科教職員を含む，以下，本専攻教職員），その共同研究者，および本専攻教職員が推薦・紹介する者とする。ただし，京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻紀要編集委員会（以下，編集委員会）が依頼した者についてはこの限りではない。
2. 投稿論文の内容：健康科学の進歩に寄与するものであり，未発表のものに限る。二重投稿は認めない。
3. 著作権：掲載された論文の著作権は，編集委員会に帰属する。掲載された論文等は，原則として電子化し，インターネット等を通じて公開する。
4. 論文の形式：論文は和文を原則とする。英文での投稿を希望する時は，あらかじめ編集委員会に申し出る。
5. 論文の種類：総説，原著，短報，諸報告（論評，解説，活動報告，紹介記事，随想，等を含む）とする。
6. 査読：編集委員会は受け付けた原稿の査読者を決定し，査読を依頼する。総説，原著および短報は，原則として2名の査読者により査読を行う。2名の査読者の意見が不一致の場合は，第3の査読者による査読を行う。諸報告の原稿については掲載を原則とする。但し，編集委員会が適任者として依頼した1名による閲読を行い，編集方針に従って原稿の加筆，削除，および一部の書き直しを指示する場合があります。
7. 採否：投稿論文の採否は，査読結果をもとに編集委員会が決定する。
8. 論文の受付：総説，原著，短報の原稿（図表，資料等を含む）はコピー2部（計3部）を，諸報告の原稿（図表，資料等を含む）はコピー1部（計2部）をそれぞれ添え，編集委員会に提出する。但し，コピーには氏名，所属などを記入しない。編集委員会に提出された日をもって受付日とする。掲載が決定した原稿については，最終原稿を記録したフロッピーディスク等も添えて提出する。
9. 校正：著者による校正は再校までとし，校正時における内容の変更や追加は認めない。
10. 印刷費：原則として著者が本専攻教職員，その共同研究者および編集委員会が依頼した者の論文については無料とし，本専攻教職員が推薦・紹介する者の論文については経費を徴収する。なお，原画の描

画を外部に依頼するときやカラー写真印刷を希望するときなどは，その経費を著者の負担とする。

11. 別刷：別刷は50部を単位とし，50部をこえる分の経費は原則として著者の負担とする。

### 原稿作成における留意事項

1. 原稿は原則として，常用漢字，ひらがな，現代かなづかいを用い，A4判用紙に40字×30行程度でワープロを用いて印字する。句読点は。 ， を用いる。外国語固有名詞（人名など）は原語を，一般に日本語化された外国語は，カタカナを用いる。度量衡単位はCGS単位とする。
2. 原稿の枚数（1枚40字×30行，本文・文献・図表を含む）：原則として原著および総説は10枚以内（刷り上がり10頁以内），短報は4枚以内（刷り上がり4頁以内）とする。ただし，編集委員会が指示した原稿についてはこの限りではない。
3. 表紙（原稿第一頁目）には表題，著者名，所属およびその所在地をこの順に従って書く。著者の所属の表記は，筆頭者は無記号，共著者の所属が異なる場合はその著者名の右肩およびその所属名の冒頭に，\*，\*\*，印をつけ，区別する。続いて，英文の表題，著者名，所属を書く。著者名の姓は，大文字で表記する。さらに，ランニング・タイトル，希望する論文の種類，原稿の枚数，図表の数，別冊希望部数を書く。
4. 次頁には，英文抄録（200 words程度）およびKey words（8語以内）をダブル・スペースで書く。
5. 論文の項目の区分は，原則として下記の例に従う。  
大項目…無記号のゴシックで記し，前を一行あける。原著論文のはじめに，方法，結果，考察などが相当する。  
小項目…以下の順で使用する。  
1. , 2. ……行の第1字目に記す。  
1), 2) ……行の第2字目に記す。
6. 図および表にはそれぞれ別の通し番号をつける。図版や写真は，図として扱う。図はなるべく原寸大とし，明瞭でそのまま印刷できるものとする。図・表の説明文は，まとめて原稿の末尾につけ，原稿本文中の欄外余白部に，図・表の挿入位置を朱記し明示する。
7. 謝辞は，本文の末尾に入れる。
8. 文献は，下記の要領に従い，引用順に配列し，本文の末尾に一括記載する。本文中の文献引用文などの右肩に，その文献番号を<sup>1)</sup>，<sup>1,3,6)</sup>，<sup>2-5)</sup>のよう

に記す。

#### 雑誌の場合

[著者名：表題. 雑誌名 発行年（西暦）；巻数（必要であれば号数）：頁（始-終）]の順に記す。雑誌名の省略記法は、和文誌については日本医学誌略年表（日本医学図書館協会編）、英文誌については Index Medicus に従う。

〈例〉

- 1) Sakaguti K, Jameson EW: Two new fleas from Japan. J Med Zool, 1959; 10: 156-162
- 2) 菅沼美奈子, 内山和美, 三井政子: 性周期記録表の試み. 母性衛生, 1978; 19: 76-82

#### 単行本の場合

[著者名：書名. 発行地：発行所, 発行年（西暦）：頁（始-終）]の順に記す。

〈例〉

- 1) Eliot TS: The Complete Poems and Plays. London: Faber & Faber, 1969: 25

- 2) Pedretti LW: 身体障害の作業療法（小川恵子, 山口昇, 青木真由美訳）. 東京：協同医書出版社, 1985: 103-115

- 3) 砂原茂一: リハビリテーション. 東京：岩波書店, 1980: 20-28

#### 編集図書の場合

[章の著者名：章のタイトル. 編者名. 書名. 発行地：発行所, 発行年：頁（始-終）]の順に記す。

〈例〉

- 1) Schwarts TW, Tager HS: Biosynthesis of pancreatic polypeptide. In: Bloom SR, Polak JM, eds. Gut Hormones. 2nd ed. Edinburgh, London, Melbourne, New York: Churchill Livingstone, 1981: 202-205
- 2) 富田 仁: 救急時検査の手技と解釈・アミラーゼ. 富田 仁, 熊谷直家, 内田耕太郎 編, 検査診断マニュアル. 第1版. 東京：メヂカルフレンド社, 1978: 96-99

## 編 集 後 記

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻紀要「健康科学」第5号をお届けいたします。ご高覧をいただければ幸いに存じます。

私どもの組織では、人々が健やかに豊かに生活できるように、からだの健康創りとともにこころの健康創りを追求し、その成果を我が国のみならず広く世界に発信してゆきたいと考えております。これを実現するために、平成19年4月には大学院医学研究科人間健康科学系専攻修士課程を設置しました。学部のほうは平成20年4月に医学部人間健康科学科に改称しました。そして平成21年4月には大学院医学研究科人間健康科学系専攻博士課程を設置します。いよいよ本格的に人間健康科学の発展を目指す教育と研究を進める日々が始まろうとしています。そこでこのタイミングに合わせ、これまで医学部保健学科紀要であった本誌「健康科学」を大学院医学研究科人間健康科学系専攻紀要とすることにいたしました。

今回は原著5篇、活動報告8篇が掲載されることになりました。本誌は京都大学学術情報リポジトリを通して電子化され、インターネット経由で国内外に向けて無料で公開されています。したがって掲載された原著や活動報告に対しては世界中どこからでもアクセスできます。今後、本誌が多くの皆様にとって有益な情報源となるための新たな展開が見られることを祈念しています。

皆様からのご講評をいただきますようお願い申し上げます。編集後記とさせていただきます。

(文責・黒木 裕士)

### 編 集 委 員

黒木 裕士 渡邊 浩子 笹山 哲 笠原 勝幸

### 特別編集委員 (英文高関担当)

前田 祐子

---

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻紀要「健康科学」第5号

平成21年3月31日印刷・発行

発 行 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻  
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53  
TEL.075-751-3901

印 刷 山 代 印 刷 株 式 会 社  
〒602-0062 京都市上京区寺之内通小川西入  
TEL.075-441-8177

---

# ANNUAL REPORTS OF HUMAN HEALTH SCIENCES

GRADUATE SCHOOL OF MEDICINE, KYOTO UNIVERSITY

VOLUME. 5 2008

## CONTENTS

### Originals

- Toshiki KATSURA, Norio MIURA, Yasuo TAKAHASHI, Seiichi HISAMOTO, Akiko HOSHINO, Kanae USUI and Ikuko HAYASHI : Visual Recognition on Risk of Falling by Visual Attention during Descending Stairs by the Aged—Comparison of Visual Attention Point between Old Aged, Middle Aged and Young Aged— ..... 1
- Takahiro OHASHI, Chiharu AKAZAWA and Yuko HAYASHI : The Relationship between the Recognition of the Medical Treatment and the awareness of the Death with Dignity in High School Students ..... 9
- Tomoko WAKAMURA, Kazuyo SUZUKI, Motomi TOICHI, Akira TAMAKI, Sachiko HORITA, Kazuko MATSUGI and Asako MIYAJIMA : Effects of Body Position during an Afternoon Nap on Body Temperature and Heart Rate Variability in Young Healthy Japanese Men ..... 17
- Megumi OTA, Hiroshige TATEUCHI, Takuya INOUE, Kotatsu NAGAI, Yoshitaka MORI and Noriaki ICHIHASHI : Modulation of Trunk Muscle Activity by Anticipation of the Sudden Perturbations ..... 23
- Masahiro TOYODA and Hiroshi YAMANE : Approach of Horticultural Therapy Assessment—Validation by Using Awaji Horticultural Therapy Assessment Sheet (AHTAS) and Existing Measures for Evaluation— ..... 29

### Reports

- Kazuyo SUZUKI, et al ..... 37
- Satoshi SASAYAMA, et al ..... 43
- Miwa TAKAHASHI, et al ..... 47
- Akiko HOSHINO, et al ..... 51
- Hiroko WATANABE, et al ..... 55
- Tsutako MIYAZAKI, et al ..... 61
- Tsutako MIYAZAKI, et al ..... 67
- Ikumi HONDA, et al ..... 71

### Extender

- Yoshihiro FUKUDA ..... 75
- Tsuyoshi SHIINA ..... 77
- Kazuhito ROKUTAN ..... 79

**Bibliography** ..... 81

**Instruction to Authors** ..... 107

**Editorial Notes** ..... 109